



川西町・三宅町
式下中学校組合立式下中学校

「学校通信」

Believe (ビリーブ)

—令和2年度第18号—

令和3年1月7日発行 文責 中本克広

保護者の皆様へ

年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

今年も、式下中学校の生徒たちへの御支援、式下中学校への御理解・御協力をどうかよろしくお願い致します。

丑年を迎えて

丑年の今年は、

「勤勉誠実さをもって、
ゆっくりとよい方向に変化していくことを願いつつ、
着実な歩みを」

心がけていきましょう。

3学期始業式にあたり、2学期の反省点を思い出し、生活面、行動面、学習面で、新たな目標を立てましょう。

例えば、

- 健康維持に努める
- なかまを大切にする
- 周りの人に感謝の思いを伝える
- 読書の時間をもつ
- 運動の時間をつくる
- 遅刻日数を減らす
- 係・当番・委員会活動がんばる
- 先生への質問回数を増やす
- 苦手分野を克服する
- 得意分野をさらに伸ばす
- 家庭学習時間を増やす
- 自己ベストを更新する
- テレビゲームなどの時間を減らす
-

3学期はどんな学期？

- ☆1年生…中学校3年間の土台をかたちづくる大切な学期
- ☆2年生…最終学年でどれだけ着実に伸ばせるかを左右する学期
- ☆3年生…残りの日々を大切に、心をどしりと構えて物事に取り組んでいく学期

勤勉誠実

自分なりの小さな目標を一つ一つクリアしながら、改善・向上が見られるようにと願います。校長として、一人一人が何にがんばっているかに注目していくつもりです。全校生徒のみなさんの“勤勉誠実さ”を信じるとともに、秘めたる可能性に大いに期待しています。

歴史にもロマンがある。

昨年の「学校通信」では、宇宙についてのできごとや話題を取り上げてきました。今年も変わらず、宇宙に関心を持ち続けていきますが、この冬休みの間に、私自身が以前から

知りたいと思っていた歴史に関することが、新聞やテレビで取り上げられましたので、紹介させていただきます。

聖徳太子 一実在派・虚構派一

元日の「毎日新聞奈良版」にこんな記事が載っていました。

「おらんの？聖徳太子！1400年遠忌 私の推理」という記事で、見出しを見て、思わず引き込まれ、全文に目を通しました。実在して当たり前、我らが誇る聖徳太子なので、疑う余地などなかったのですが、実在派、虚構派の両方の見方が並立して書かれていました。

太子道沿いにある本校にとって、縁とゆかりの深い聖徳太子ではありますが、実在したのか、架空の人物（つくりあげられた人物）なのか、どちらが真実なのか明確な答えは出ていないようです。両方の見解があるということで、歴史の世界の奥深さとロマンを感じます。だからこそ、今後、誰もが探求していくことができるのですね。みなさんが、総合的な学習の時間に行う調べ学習は、その第一歩だと思います。

622年に没後、今年は1400年遠忌にあたります。今後、聖徳太子について取り上げられることが多くなっていくことでしょう。みなさんにもぜひ関心をもって考えていってほしいと思います。

*「黒馬に乗った太子像」は、「三宅町ホームページ内『三宅町てくてくマップ』」の写真に掲載させていただきました。（改めて見に行きますと、とても優しいお顔をされていました。）



本校東側にある白山神社内に建立された「黒馬に乗った太子像」

邪馬台国 一畿内大和説・北部九州説一

これもまた、歴史に関することですが、元日夜のNHK BSで、「邪馬台国サミット2021」という番組がありました。「日本史上最大の謎の一つ、邪馬台国に迫る。最新の証拠や資料を検証し、第一線で活躍する研究者たちが『邪馬台国はどこにあったのか？』や『女王・卑弥呼とは何者なのか？』などについて自論を述べ合う。」という番組でした。

『邪馬台国はどこにあったのか？』については、畿内大和説と北部九州説があり、確実なところはわかっていません。いずれにしても、川西・三宅で生活し、学ぶ私たちにとって、きわめて身近で興味深い話題です。

「魏志倭人伝」には、邪馬台国について、「居住して七、八十年後、倭国は乱れ互いに攻撃しあって年を経た。そこで、一女子を共に立てて王と為した。名は卑弥呼という。」

乱れていた倭の国の邪馬台国が女王卑弥呼を共立することによってまとまっていく。女性が中心になることで、平和な世の中にもどった。」という内容が読み取れます。

教科書に出てくる邪馬台国という大きなテーマですが、一つの見方だけでは納得解が得られないということです。現時点では誰も確かなことが言えないからこそ、今後の研究が期待されるのです。歴史を志す人にとっては論文のテーマにもなりうる魅力とロマンのある課題ですね。

「歴史を歩く 愛を歌う歴史と愛の町、屯倉(みやけ) 奈良県三宅町」というパンフレットには、三宅町と邪馬台国の関係性についてふれられています。校長室前に置いておきますので、よかったら読んでみてください。

上記を通して思ったことですが、みなさんが社会で活躍するこれからの時代は、意見を交わし合う『対話』がキーワードになる気がしてなりません。次の時代に求められるのは対話できる人なのではないでしょうか。意見の異なる人から自分にはないものを吸収しようとする姿勢、意見が違うからと言って排除しない生き方、お互い異なる部分があるからこそ、より発展するという考え方の持ち主になっていくことが、これから先の時代に求められる人の姿なのだと感じました。

